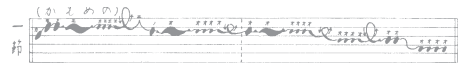


# やんさノエ

会報

2007 No.8



発行 江差追分会

2007.8.6

北海道松山郡江差町中歌町193-3

TEL 0139-52-5555

FAX 0139-52-5544

ホームページアドレス <http://www.hakodate.or.jp/oiwake/>

## 副会長の就任に当たって……………

江差追分会副会長 馬川政紀



第45回大会ポスターデザイン写真

思いもよらない追分会副会長の就任でした。

浅学非才の私を、全国的にも有名な江差追分会の副会長に推薦・決定して頂きました

師匠初め理事・支部長・会員の皆さまに心から感謝とお礼を申し上げます。

私は、昭和五十八年から六年間江差追分会事務局長の仕

事をさせて頂いたお陰で多くの師匠・支部長・会員との触れ合いを得ることができました。と同時に江差三下り会の幹事長を勤めさせて頂いたお

陰により、更にその触れ合いの輪を拡げることが出来ました。

江差生まれの私にとって、追分を愛する気持ちは誰にも負けないつもりでおりますし、多くの会員との触れ合いは私の大切な財産でも有りません。

現在多くの課題を抱えている追分会の副会長として、今後の追分会をどうするのかという私の考え方については、この紙面では申し上げる事はできませんが、当面今年の第四十五回記念大会を成功させる事と、私が追分会事務局長の時に現事務局長等と発想し、現在も継続している「追分セミナー」の充実・発展に努力して参りたいと思っております。

追分会員の皆さま、新参ですが宜しくお願い致します。

# 平成十九年度総会

## 第四十五回全国大会記念アトラクションを計画

### 事業規模は前年並み

平成十九年度江差追分会総会は、四月二十二日江差町ホテルニューえさしで開催され、全国の支部代表が出席、本年度の予算及び事業計画が決定された。



子供達による追分踊り(総会終了後の懇親会にて)

平成十九年度予算総額は三、一七七

万五千円、前年度とほぼ同額の規模となった。町より支援される補助金四六〇万円、追分会館の窓口委託料三七八万円も前年と同額である。

支出も前年とほぼ同じ事業費を盛りこんでいるが、本年は第四十五回記念大会のため全国大会やその他の事業費を節減して記念大会アトラクションに二百万円を捻出している。

記念事業は五年ごとの節目に行われ、従来は町補助金に依存していたが、自治体改革で補助金が圧縮されたことなどから、今後は出来る限り自主運営する方針で事業が計画された。なお記念事業は、当面の課題である指導者と後継者の育成をテーマにしたアトラクションを演出する方針が承認された。

## 会員の高齢化による

### 出場枠の配分

#### 熟年層の増加を調整

最近民謡界の傾向として新会員の加入が停滞気味で、会員の高齢化が進み、追分会においても本年一般と熟年の会員比率は一般四七、七七% (前年四九、七五)、熟年五二、二三% (五〇、二五) と熟年に進行している。

大会の出場総数は三日間の日程で三五〇人に限定されており、その範囲で昨年から検討された方針により出場枠が調整された。

一、推薦枠支部数の二分の一  
一七七人(変更なし)

二、一般出場一五二人(前年一九二)

三、熟年出場一二一人(前年八一)

出場枠は平成十七年度の割合を基準数値にして調整している。

決選会の出場は一般五〇人、熟年二〇人で変更しない。

熟年層の増加が更に進行する傾向にあることから、熟年の年齢構成を六五歳から七〇歳の範囲で繰り上げることが提案され今後の課題として論議された。

## プロフィール

### 追分会副会長 馬川政紀氏



昭和十四年江差町新地に生まれる。生家は新地花街で料亭を

経営、戦時中食堂に転業するが、幼いころは唄や芸の環境で育つ。

昭和三十一年高校二年生のとき、江差高校追分部の創設にかかわり、卒業後二十二歳のころ若者たちの追分グループ若葉会に参加して歌い始める。第二回江差追分全国大会から出場、以来七回挑戦する。

料亭経営の母が江差三下りの歌い手であったことから、三下りを習い始め、昭和三十六年江差三下り保存会に加入、三十八年から教育委員会成人学校三下り講座で歌い始める。四十八年に事務局を担当、以来三下り保存会の普及運営にかかわり事務局長、準師匠、師匠の役割を担っている。

昭和五十八年江差町商工観光課長に就任してから追分会事務局長を六年間務める。平成十九年四月副会長就任、賞罰委員会委員(平成十七)師匠審議会委員(平成十九)。

# 副会長退任にあたって

坂本 勇



平成  
七年四  
月、江  
差追分  
会・副  
会長に  
選任

され、全国組織である名高い江差追分の運営に関与することに重圧を感じ不安がありました。若山前会長、濱谷会長、役員・指導者、事務局の皆様を支えられ本年四月微力ながら十二年間の務めをもって退任いたしました。これまで、ご指導ご鞭撻を賜り厚く御礼を申し上げます。

在任中は全国十地区運営協議会の行事に出席いたしました。会員皆様の江差追分にかける意欲に並み並みならぬものを感じたことが強く印象に残っております。会員・皆様のために、また会の目的である日本の民謡文化の振興発展に寄与するために努力しなければならぬ、と意気を感じてきました。

社会環境の変化とともに民謡は沈滞状況にあるようです。残念なこと

です。江差追分も例外ではありません。事務局の皆様には将来を見据えて、ご苦労が多いことと思います。昨年三月答申されました江差追分運営検討委員会における討議の結晶が早晩改革に向け議論の俎上に載せられることを期待しております。

最後に私の「座右の銘」としております「人生は修行なしには人生と呼べないのだ、人生あるところが修行ありなのだ、いまいるところが人生の道場なのだ」という道元禅師の言葉があります。

江差追分会での十二年間は数々の思い出とともに計り知れない修業の場でありました。

「江差追分」は楽曲としてだけでなく、人生、修業の場となる名曲であると思っております。いつまでも民謡界の星として、日本の宝として全国民で守り続けていただきたいものとお願いいたします。

全国会員皆様のご健勝と江差追分会のご発展をご祈念申し上げ退任のご挨拶といたします。

(前副会長)

# 追分会の課題取り組みに相談役設置

札幌在住 多田義和氏推薦

## 平成十九年度第二回 江差追分会理事会を終了

今年度の第二回江差追分会理事会が七月十四日江差町で開催され、三十一名の理事が出席し、上程された案件【タイムスケジュール、記念アトラクション（P七参照）、専門部会への諮問、相談役の推薦について】全て承認されました。



江差追分会の当面する課題にむけて、広い視野で対応する必要性から、七月十四日理事会において、相談役を設置することとし、札幌市在住の多田義和氏（七四歳）の推薦を決定した。

江差追分会の当面する課題にむけて、広い視野で対応する必要性から、七月十四日理事会において、相談役を設置することとし、札幌市在住の多田義和氏（七四歳）の推薦を決定した。

### 「理事会運営部門で協議」

議案第二号で上程された「専門部会への諮問について」では、

①少年大会優勝者の翌年の出場の取り扱い

②熟年出場者の年齢制限等について

を専門部である「運営部門」（担当理事・坂野正義・福田継男・阿部眞光・大原勇一郎・菊地勲・柳田実）に諮問し、全国大会終了後以降、来年の総会時まで二回程度協議をし、答申を受けることとなりました。

氏は西武建設国土計画に在職、オリエンピック施設計画にかかわり、更に関西国際空港にも参画、現在東京農業大学顧問として漕艇部の指導にあたって

論考

白銀も黄金も珠も……………岩淵啓介

NHK教育テレビの番組に『ほんごであそぼ』がある。月曜から金曜まで毎朝八時から十分間、週五回放映される。これが、おもしろい。

二〇〇七年七月二日の放送の始まりは、いつも活躍している子供たちの自己紹介だった。それぞれの扮装で、番傘を担ぎ、見得を切って、歌舞伎口調で声を張る。

「しらざあ、いって、きかせやしよう。…………たア、おれ（わたし、ボク）のことだ（です、だわよ）」

まったく笑ってしまう。つづいて、どこかの惣菜屋さんの家族らしい若いお母さんと幼ない娘さんが、掛け合いで長セリフを、やや間を置きながらも、間違えずに言い切る。よくまあ覚えたものだ。

「知らざ言って聞かせやしよう。浜の真砂と五右衛門が、歌に残せし盗人の、種は尽きねえ七里ヶ浜、その白浪の夜働らき、以前をいやあ江ノ島で、年季勤めの（稚）児ヶ淵。百味講でちらす蒔銭を、当に小皿の一文字、百が二百と賽銭の、くすね銭さえだんだんに、悪事はのぼる上ノ

宮、岩本院で講中の枕探しも度重なり、お手長講の札付きに、とうとう島を追い出され、それから若衆の美人局、ここや彼処の寺島で、小耳に聞いた音羽屋の、似ぬ声色で小ゆすりかたり、名さえ由縁の弁天小僧菊之助たア、おれがことだ」

ご存じ、『白浪五人男』の「呉服店・浜松屋」の場面での弁天小僧の啖呵である。外題は『弁天娘女男白浪』（べんてんむすめ・めおのしらなみ）とも言う。もとは河竹黙阿彌作、文久二年（一八六二年）、江戸は市村座初演の『青砥稿花紅彩画』（あおとぞうし・はなのにしきえ）三幕であった。この歯切れのよい、七五調の名セリフは、その言葉のいちいちの意味となると、恐ろしく難しい。

このセリフを、そっくりそのまま絵本に仕立てた『声にだすことばえほん 知らざあ言って聞かせやしよう』（二〇〇四年、ほるぷ出版）が出版されている。

編集・解説は斎藤孝・明治大学教授、文化庁文化審議会国語分科会委員。すっかり人気者になり、NHKの『に

ほんごであそぼ』の監修者でもある。この番組では、取り上げている名文に一切解説を施さない。ひたすら視覚と聴覚とに訴えるだけである。

杜甫の「国破れて山河あり」なども、ドラマふう情景は描かれるものの、詩文や言葉の解説はない。

幼い子供に繰り返し繰り返し聞かせ、テレビジョンの特性を活かし、ドラマ（行動）化して、おもしろ可笑しく見せる。いつのまにか、子供たちの記憶に「よい日本語」が染みついてしまう。

私たちが中学生だったころ、中山周三先生（のち藤女子大学教授、北海道新聞文化賞受賞）が国語を教えておられた。

先生は自らも歌人であられたが、本も何もないころ、謄写版刷りのプリントを作り、生徒に配り、授業に使われた。十二、三歳の少年の頭に、『万葉集』以来、現代短歌に至るまでの名歌が染みついた。

死に近き 母に添い寝の しんしんと 遠田のかはず 天に聞ゆる 斎藤 茂吉  
牡丹花は 咲き定まりて 静かなり 花の占めたる位置のたしかさ 木下 利玄

などなど幾つもの歌を六十年後も覚えてるのは、中山先生の御陰げであろう。

『にほんご』では、宮沢賢治の言葉が、しよつちゅう出てくる。

どっどど どっどど どっどど  
どっど、青いくるみも吹きとばせ

（『風の又三郎』）

この作品は中山先生が教室で声を出して音読してくださった。

海だべが おら おもたれば  
やっぱり光る山だちぢやい  
ホウ  
髪の毛 風吹けば  
鹿（しし） 踊りだぢやい

詩集『春と修羅』をも声に出して読んでくださった。

弟子たちを教えるのが上手な、あ

る江差追分の師匠が話していた。  
「江差追分は独りで覚えようとすれば難しい。よい指導者に就けば容易に歌えるようになる」

こんな先生に習って、子供たちが「江差追分」を歌えるようになったら。子供には一生涯忘れられない、ことばと音楽、すなわち「日本の歌」が身につく。「宝の子ら」に、さらに「宝」が備わる、といえる。

（学芸部門理事）

# 懐古・SPレコードを聞きながら(七)

## 江差追分を愛した田澤はつ師：高田 裕



田澤はつ(波津)  
(写真提供・井上肇氏)

明治三二年(一八九九)に発行さ

れた「札幌案内」は、市勢要覧と観光ガイドが一緒になったような内容で、そのなかに追分節の遊芸家として(田澤はつ)という女性が紹介されている。同書によると明治二三年、南四条西三丁目の薄野遊郭に見番ができ、その当時の芸妓は八九名で、新富見番・本玉の部にも波津(ハツ)という源氏名が記載されている。

また、遊芸家一覧には義太夫・常盤津・長唄・新内・清元と同列に追分節が並んでおり、おそらくはこの波津なる人物は追分の第一人者として誉れをえていたことがうかがえる。

昔の芸妓のこととなると、大正一四年発行で渡部一英著の「北海道乃花街」が詳しいのだが、時代が違うのか彼女のことは載っていない。で、唯一手がかりとなったのが北海道新聞の前身・北海タイムスの二紙である。改めて、日付・タイトルなどを紹介しておきたい。

・明治四五年一月一日(月)日付

第七、五二九号・一五面

子歳に因む札幌藝妓・鼠鳴き

元見の波津(顔写真つき)

・大正元年十一月八日(金)日付

第七、八九七号・四面

列傳体明治札幌郡・花柳史(14)

元見取締・波津

これらの記事によると、波津は元治元年(一八六四)四月九日、田澤貞蔵・スクの二女として青森県弘前に生れ、明治十年一四歳のとき小樽に渡り半玉でであるが、間もなく忍路郡塩谷に移住。その後、明治二年には札幌の高級料亭・昇月桜の田中伊曾を頼り、すぐ家芸者となって追分節の名手としてお座敷がかかる。

追分にひかれ、彼女に惚れた男性たち。波乱万丈の艶聞もあったようだ。後年、彼女は若い芸妓たちからも慕われ衆望一致で見番の取締りとなって活躍する。

このように明治期から大正期にかけて好評だった札幌芸妓の追分節。レコードに吹き込んだ追分二首は、彼女の境涯を時代に即応して詠嘆したものなのだろう。歌詞を紹介する。

『追分節』唄・札幌元見番・波津

へ櫓も權も波にとられて

身は捨て小船

どこにとりつく島もない

へ声は高島静かに忍路

忍ぶ小樽の伸じやもの

ヒコキレコード2004

お座敷で披露していた追分のわりには華美なところがなく、むしろ落ち着いた奥行き深さを感じる。何気ないようでいながら、ピシッと神経の通ったおおよそ百年前の追分。もしかして、これが追分の粋や味につながるのかもしれない。

彼女の追分の実力は、尺八名人・菊池淡水の師匠であった後藤桃水が昭和二九年、追分界の将来を憂えるあまり発表した論考・「民謡のため

に」でも充分知ることができる。

大正の初め民謡がようやく世に認められ同好の人々によって先ず追分節が唄われ、盛んに研究されたものです。さすがに追分は民謡の王ともいわれ、その旋律はよく国民性に適合し、追分を知らないでは民謡を知っているとはいえないほど尊重されたものです。北海道は追分の本場といわれ、過去に於て平野源三郎、越中谷四三郎、村田彌六、阿部鷗江、三浦為七郎、酒井文作、金森傳七郎、田澤はつ、諸氏のような先覚者達はその独創的な見地から、苦心して追分を上乗な民謡に向上させたものなのです。(一部抜粋)

引用が少し長くなったが、後藤桃水に言わしめた追分女性名手は田澤はつ一人で、まさしく先達者であり、その唄声に触発された人も多かった。

七・七・七・五の二六文字で語る彼女の追分は人生の深さが内にひそみ、独自の言霊となつて聞く者を陶醉させたことだろう。だが、昭和十一年二月十一日、札幌のご自宅にて逝去する。享年七三歳だった。

(学芸部門理事)

# 近時雑感

…………… 館 和夫

近頃びっくりしたのは、大相撲の新弟子検査に一人も応募者が集まらなかったというニュースである。

「砂付けて男を磨く相撲取り」という、往年の名力士名寄岩のサインを新聞紙上で見て、感激した覚えのある私にとって、近頃の若者は、しりを出して相撲をとる大相撲という仕事は、格好が悪いと思っている、という新聞の解説はさらにショックだった。

音楽の世界の国技は民謡と信じて疑わない私などは、まわしを付けて闘う相撲の格好が悪いなら、日頃からお国なまりを大切にするような感性をもつ民謡の唄い手などは、さらにダサイ格好が悪い存在として若者達に認識されているのではないかと、いままさに情弱になった日本人の生活意識の変化に暗然とさせられたのである。

しかし一方、旧来の伝統社会にも反省すべき点が多々あるように思う。その一つは、何の道であれ、とにかく一人前になるまでは「どんな無理でも黙って辛抱しろ」式の精神主義が強調される場合が多いことである。

それかあらぬか、大相撲の世界では前記のニュースが伝えられた後、十七歳の序の口の青年が、稽古中に急死するという不幸な事故も発生している。

むろん民謡の世界では、稽古で死ぬなどということはいないであろうが、スポーツを始め各種の専門職や高度な職人技を要するような分野、とくに伝統芸能、伝統技術などの世界では、ともすれば過度の精神主義が横行し、弊害を生じている場合が少なからず見受けられるように思う。

追分の指導がそのような現状にあるというわけではないが、一般には発声も節回しも超高難度の唄に、苦行僧的な態度で挑戦しなければならぬ特殊な世界のように思われている一面があるのも事実である。とすれば、何の世界でも後継者難が問題になって今、そのような理由から本来楽しいはずの民謡の世界が食わず嫌いの対象になって敬遠されるのは、甚だ残念な事態と言わなければならない。

今の世の中には民謡が必要だ、出番だ、と思われるような場面は、まだまだたくさんある。そこで、さまざまな悩みを抱えながら暮らしている身の回りの庶民で、この際ぜひ自分の仲間になってほしい人々に、人生の旅の友であり、慰めであり、活力源でもあるこの唄の功徳を、大いにPRした上、入門を勧めてもらいたい。

つまり、われわれ追分会に結集する愛好者は、この際こそ一斉に声をかけよう、日頃から心がけていただきたいと思うのである。

もちろん、声を掛けられ、自発的に追分を習いはじめた人でも、誰しもが舞台に立って、人々をうならせるような名人上手になれるわけではない。しかし、いったん追分を愛するようになった人間は、自分なりの追分を唄えるようになり、かつまた人さまの唄にこめられた微妙な情味を聴き分け得るようになればそれで本懐と思うはずである。

とにかく新たな追分ファンを獲得するには、追分は難しい唄だということ、先入観を拭い去る必要がある。それとともに指導に当たっては、過度に精神主義、競争主義的な雰囲気や稽古場の中からできるだけ排除するよう、指導者側の理念を統一する必要もある。

ここで原点に立ち返って考えてみると、この唄の魅力の源泉について私は、基本となる曲の旋律や構成の最小限度の同一性が守られているという前提のもとに唄の背景をなす土地の歴史と風土、および演唱者の豊かな個性が多彩な表現のもとに発揮されている状態にある、とみている。とにかく追分は、その本質からすれば、誰かが何かを代表し、まなじり

を決して唄うというような性質の唄ではないことだけは確かである。

さらに忌憚なく言えば、現在、中心になっっている標準的な節回しの追分の価値はそれなりに十分に尊重されなければならないが、ほかにも、新地節や浜小屋節などの歴史的な意義を持つ古調追分の存在意義もまた十分に理解され、伝承のための努力が払わなければならないと思う。曲調の基本を破らない範囲で節回しや息継ぎ、あるいは新文句などに自由な工夫を凝らした唄の発表の場が、もっとあってもよいと思うがいかがであろうか。

その点、現在、本大会の後に「残念組」の出演者が好んで参加している笑い嘆き節大会などは、まことに面白い企画で、私はそこにこそ本流の追分大会ではあまり聴くことのできなくなった庶民の生活実感のこもった荒削りの追分が聞けるような気がして、その将来性に大いに注目している。

したがって、そのような新たな可能性をはらんだ発表会にこそ「ユニーク賞」とか、「前途有望賞」とか、「研究努力賞」というような参加者の励みになるような賞を設けて、追分世界の幅を広げる上で大切なそれら個性派の唄い手の育成・顕彰を図ることもまた大切ではないかと思う。

(学芸部門理事)

# 第四十五回大会記念アトラクション

## 「次世代に引き継ぐ追分節」

後継者の育成は、本場の追分節を伝承普及する課題といわれて久しい。

江差高校選択単位制授業、町内小中学校の総合学習、旭川での邦楽、学習など学校現場の取り組みが見られるようになった。

しかし後継者の育成は緊急な課題として展開しなければならない。

本場の追分節を次世代に引き継ぐ足がかりとして、学校現場へのPR、成果発表の場として「学生」をスポーツのアトラクションで構成する。

### 一、九月二十二日(土)

午後八時～午後九時(予定)

□江差地区少年による江差追分合唱

□江差地区年少者による江差追分

(三名) 四歳・三歳・三歳

□江差高校生徒(四名) 単位選択生徒による追分発表

□子供たちだけによる江差追分

①唄 瀧澤朱夏

②踊り Hamanasu会(八名)

③伴奏 尺 八 山本 昇

山本 歩

明石 優

三味線 近藤早梨

添い掛け 中島弥生

### 二、九月二十三日(日)

午後五時五十分～

午後六時四十五分(予定)

□前年度優勝者の唄

①第十回少年全国大会優勝者

瀧澤 朱夏(本唄)

②第十回熟年全国大会優勝者

中村 ツマ(本唄)

③第四十四回江差追分全国大会優勝者

寺島 絵美(一本)

□東北のこども

たちの民謡

①秋田王藤会

(唄) 秋田追分

本荘追分

(踊り)

秋田おぼこ

②青森県南部町

早蕨会

(唄) 南部追分

(踊り)

南部荷方節

(手踊り)

## 三度目の事務局で……… 事務局長 小田島 訓

このたび三回目のご縁で江差追分会の事務局を担当することになりました。

私と江差追分との出会いは、昭和五十六年に江差追分分會館が建設されるというところで江差追分分會館建設整備促進期成会の事務局を担当したのがそもそもの始まりで、二回目の勤務が平成九年から一年半担当しておりましたので、これまでに通算八年半担当いたしました。

その間には、全国の追分関係者の方々と知り合いになることが出来ましたし、それは今も私にとって貴重な財産となっております。今回は、これまでと立場も違って

事務局にまいりましたが、現状は今日の少子高齢化社会を反映して、会員の高齢化、後継者の早期育成、また国や自治体再編の影響による財政の問題があつて、従来のような追分会の運営が困難になってきております。

この現状を追分の唄に例えるならば、「五節」が昇り切れない状況であり、この「五節」を情感あふれるように唄いきり、「六節、七節」とつな

げるためには、各会員の皆様方の知恵を拜聴させていただきながら、整理させてもらいたいと考えておりますので今後ともご指導よろしくお願

神戸市在住の右田千秋さん(左)は五月上旬、初めて松山管内江差町を訪れた。六十一年前、旧満州(現中国東北地方)から引き揚げるときに耳にした民謡、江差追分を本場で聴くために。

まど

## 追憶の江差追分

んは母ときょうだいの母子五人、収容施設で肩寄せ合つて過ごした。薄い壁を隔てて、毎日のように隣の部屋から民謡の鼻歌が流れてきた。歌っていたのは北海道出身という三十代くらいの男性。哀愁を帯びた、心にしつとりと響くメロディーが心地よかつた。それが江差追分だと知

つたのは、帰国後だいがたつてから。江差追分は、北前船が行き来した時代に望郷の思いが育てた。男性も、無事に故郷に帰れるかどうか、不安な気持ちを抱えて歌っていたのだらうか。母の日のプレゼントに、と娘が誘つてくれた江差の旅。町営の江差追分分會館を訪ね、流れるよ



事務局より

●今年度の総会で決定した新しい役員の方です。期間は、平成二十一年の総会時までです。二年間よろしくお祈りします。

平成十九年度第二回師匠会研修会

参加資格は四級秀以上の有資格者が対象です。日程は次のとおり。  
 ○十月十三日(土) (二日目) 十三時～十七時  
 ○十月十四日(日) (二日目) 九時～正午  
 場所は、いずれもホテルニューエース。

[江差追分会役員名簿]

(任期：平成19年4月24日から平成21年総会時まで)

顧問	三隅治雄		本田義一	
名誉会長				
相談役	多田義和 (H19.7.14～)			
会長	江差町長 濱谷一治			
副会長	青坂満		馬川政紀	
常務理事	江差追分会事務局長			
理事	地区部門理事	運営部門理事	芸能部門理事	学芸部門理事
	浅沼春義	坂野正義	近江八声	館和夫
	佐々木基晴	福田継男	房田勝芳	松村隆
	熊野正宏	阿部眞光	小笠原次郎	岩渕啓介
	小野常光	大原勇一郎	浅沼和子	高田裕
	吉田保	菊地勲	渋谷義幸	
	田村重光	柳田実	清水勲	
	伊藤良三		杉山由夫	
	渡辺傳次郎		石田盛一	
	佐々木東雲		奥野和芳	
	杉山貞悦		吉田翠山	
			山本ナツ子	
			長谷川富夫	
監査役	亀田栄	干場芳巳	坪田昭信	

大黒摩季 十五周年記念  
初プロデュース

木村香澄がソーラン節にアレンジ、民謡のジャンルに新風を送る第一作。  
 江差追分をアカペラで唄う。希望  
 申込を受けます。

(江差追分会)

CD新発売

江差追分唄語り(改訂版)

(語り) 江差追分上席師匠 青坂 満



○青坂満が江差の唄と芸能を語る改訂版追加録音、網起し切声、古調浜小屋節江差口説を追加 全十曲  
 祭りばやし 全五十六分

○定価二〇〇〇円 九月発売予定

制作 H K サービス  
 申込 江差追分会

〇一三九一五二一五五五

あとがき

□ヤンサノエの編集を学芸部門が担当してから四年目になります。会員みなさんに親しんでもらいながら役立つように心がけていますが、いかがでしょうか。ご意見をいただければと思っております。

□「次世代へ引き継ぐ追分節」第四十五回大会記念のテーマは、現在追分会が直面している課題ですが、この課題に向けて具体的な取り組みが迫られていると思われまます。  
 □会員の高齢化、若い世代の伸び悩み、後継者の育成など多くの課題があります。これらの課題に対処する情報や問題点を事務局と連携しながら提供するように心がけたいと思っております。

【編集】 岩淵啓介・松村 隆

館 和夫・高田 裕

【企画】 江差追分会事務局

大黒摩季 15周年記念  
 初プロデュース  
 第1弾大型新人誕生  
 KAZUMI  
 待望のデビュー・シングル!  
 緊急リリース!  
 民謡「香澄」の放つ魂の唄と「大黒摩季」のポップサウンドの融合。  
 躍動感溢れるニュージャンル「Dance」民謡がここに生まれる  
 「北から全国へ!」  
 日本から世界へ!!

**KAZUMI**  
 Debut SINGLE  
 「ソーランBeat」  
 MSCD-1002  
 ¥1,260 (tax in)  
 2007.6.1 release

定価 ¥1,260